

## 会議の概要

会議名	令和元年度（2019年度）第1回宝塚市観光振興会議	
開催日時	令和元年（2019年）10月29日（火）10:00～12:00	
開催場所	宝塚市役所3階 特別会議室	
出席者	委員	吉兼会長、和田副会長、足立委員、岡委員、胡中委員、辻原委員、水島委員
	事務局	産業文化部長、宝のまち創造室長、観光企画課長、観光企画課係長（3名）、観光企画課係員
公開の可否	可	
傍聴者	なし	
議題及び結果の概要		
<p>1 開会</p> <p>2 委嘱辞令交付等</p> <p>(1) 市長より各委員へ委嘱辞令を交付</p> <p>(2) 市挨拶：中川市長（挨拶内容：以下のとおり）</p> <p>「本市の観光政策は、平成26年（2014年）5月に観光振興の推進を目的に「宝塚市観光集客戦略」を策定した。策定にあたって、まず「宝塚」という地域の文化・産業・歴史・自然などを再評価・再認識することが新しい文化と魅力的なまちづくりにつながると考え、その土台があって初めて戦略が活かせると明記している。</p> <p>また、最終的には観光を通して、市民も来訪者もその相互交流を通じて、健全で心豊かに過ごすことができる時間を実現していくことを目的としている。</p> <p>その観光集客戦略の対象期間は2020年度までとなっていることや市の最上位計画である第6次宝塚市総合計画策定を行うことに合わせて、今般、見直しを行おうとするものです。</p> <p>現在の戦略策定当時から社会情勢は大きく変化しており、国全体で人口減少が進む中、今後、地域経済の持続的発展を実現するためには、「交流人口の拡大」が大きなテーマになりますが、その中心的役割を果たすのが「観光」であると考えている。観光は極めて裾野が広い産業であり、大きな経済波及効果が期待される。</p> <p>そのような状況の中、今後の本市の観光の方向性を示す観光振興戦略はとても重要な役割を果たすものと考えており、ぜひ活発なご議論・ご審議を賜りますよう、よろしく願います。」</p>		

(3) 会議の成立及び会長、副会長の選出

(宝塚市観光振興会議規則第 6 条第 2 項の規定により、成立)

(出席委員 7 名)

(同規則第 5 条第 1 項の規定により委員の互選によることから、会長に吉兼委員、副会長に和田委員とする事務局案を全会一致で承認)

(4) 諮問 (同規則第 2 条第 1 項)

(市長より、同振興会議 吉兼会長へ諮問)

諮問内容 (別紙のとおり)

(5) 傍聴について

(事務局より宝塚市観光振興会議傍聴要領の説明)

傍聴者の有無、確認：傍聴希望者なし

### 3 議事

(1) 戦略の策定スケジュールについて

事務局から、宝塚市観光振興戦略及び附属機関 (審議会) の見直しや戦略予定期間 (資料 4)、今回の策定スケジュール (資料 5) を説明し、その後質疑。

会長： 策定スケジュールで審議会の第 4 回と 7 回は資料に網掛けが無いが、いずれも非公開なのか教えてほしい。

事務局： 今回の委託事業者に審議会の運営補助をお願いしている。  
網掛けの無い第 4 回と 7 回はその運営補助が無い回である。

(2) 現戦略の進捗状況について

事務局から、宝塚市観光集客戦略進捗状況 (平成 26 年度～令和 2 年度) (資料 6)、宝塚市観光集客戦略進捗状況総括 (当日配布資料) 及び宝塚市観光集客戦略 (資料 9) を説明し、その後質疑。

会長： 前回計画を振り返り、継続性をもって次に繋げていく姿勢は評価出来る。  
ただ社会情勢の変化が激しい中で単なる継続では駄目で今後この場で検討していく事になる。

前回の計画は 5 年間だが、都度見直したのか教えてほしい。

事務局： 観光集客戦略についての見直しは無かった。基本戦略に沿って動いていた。

第5次総合計画では前期・後期とわかれており、その中で指標である観光入込客数の修正などは行われた。

会長： 刻々と情勢が変わる時代なので常に見直しが必要である。又、内部の意見だけでなく、可能な範囲で開示し外の意見を取り入れる事が重要である。本日お示しいただいたのは事務局としての振り返りであり、見直し内容等は次回戦略に合わせて委員からも意見を伝えていきたいと考えている。

副会長： 前回の戦略から新しいものを生み出していく中で宝塚らしさを出していく必要がある。基本理念からキーワードを絞り、宝塚市のアドバンテージになる素材を既存のものから深めていく方が良い。その際に気をつけなければならない事は、「掘り起こし」には時間がかかるのでスケジュール感を持ちながら進めていく意識が必要である。

委員： 印象としては、一言でいうと「もったいない街」。

230千人の都市に年間8,600千人の来訪者があると、もっと宿泊施設や賑やかな施設の出来てもいいのに現状はそうではない。要因としては、目的型観光ですぐ帰ってしまうからではないか。

宝塚市には魅力ある資産が多くあるので、それを磨き上げていき、来訪者を引き留めて、お金を落としてもらおう戦略が必要である。

会長： 来訪者の数が多すぎるためか滞在時間が短いためか、市民に来訪者の顔が見えていない可能性がある。顔が見えると良いも悪いもそれに対してアクションがおきる。顔が見える交流をどう生み出していくかが重要である。

委員： 昔は、宝塚歌劇以外にも見るものもあったが、阪神大震災以降旅館街も無くなり、より宝塚歌劇に頼る部分が大きくなった印象がある。又、以前は市民向けに西谷地区など交通不便な箇所にバスを運行し宝塚の観光資源を見せていた取り組みがあった。市民が意識を高める施策も必要ではないか。

また、公衆無線LAN(Wi-Fi)整備の助成が中止とあったが、今後インバウンドを受け入れていくには無くてはならないものであるの見直しを求める。

会長： 宝塚市も阪神大震災で大きな被害があったかと思いますが、それを伝える語り部はいるのか。記憶というのも非常に重要な観光資源である。

### (3) 観光客動向実態調査等報告

事務局から、観光客動向実態・ニーズ調査報告（資料 10）及び宝塚北サービスエリア調査の目的を説明し、その後質疑。

委員： 調査報告は、宝塚歌劇・中山寺参拝等の目的型で宿泊施設も少ない事や朝・夜のイベントも少ない事から日帰り客が多いなど、ほぼ肌感覚通りの印象である。こうした実態を踏まえ、今後宝塚市に来訪者が増え地元にお金が落ちる事（宿泊客が増える等）を考えるのには宝塚市だけでなく広域市町村と連携による誘客戦略が重要と考える。

Web アンケート調査対象が 1,800 名とあったが、その方が宝塚を知っているのか、知らないのか、知っているのであれば、どのような所を知っているのか、行ってみたいのか、イメージ等のリピーターに対しての分析もあったほうがよい。

また、知らない・来られていないの方が裾野は広い訳であるから、その層に対してどのような告知・PR 手法を行い、誘客に繋げていくかを今後考えていく事が重要である。

会長： 「どう知っているか」と「どう知られてないか」とは表裏一体である。今はネット社会でそのような分析も出来るので意識が必要。又、インバウンド誘客を考える際に広域連携は避けて通る事は出来ない。

委員： 調査報告については、普段より市内事業者や商工会議所内で話しをしている内容に沿ったものという印象である。

これまでの社会変化で市内事業者等も各フェーズで対応はしてきたが、宝塚ファミリーランド閉園後は、やや対応しきれていない側面もある。

Wi-Fi については、商工会議所でも促進してきたが、再度事業者の声も聞きながら今回の議論に反映させていきたい。

会長： Wi-Fi の整備が進まないのは、インバウンド客数が現状少ない事にも起因している。

委員： 兵庫県阪神北県民局でも今年度よりインバウンド誘客の対策を開始した。インバウンド対策には、面的な対応が必要であり、広域連携が重要である。

人口減等により今後、国内観光の拡大が見込めない中、唯一拡大が見込めるのはインバウンドである。そのインバウンドを取り込むためには、外国人

の生の声による分析が必要であるにも関わらず、今回の調査報告で Web 及び宿泊施設での調査で外国人を対象に実施していないのが残念である。

また、現戦略は市街地に力点が置かれているが、インバウンドを取り込むには、岐阜県の飛騨古川でのサイクリングツアーの成功モデルを参考に西谷地区の豊かな自然を活用した取組が考えられるのではないかと。

宝塚市は、阪神北地域の中でも文化と自然の両面の観光コンテンツを有している。現在は、有効に活用されていないが、今後、これらのコンテンツを活用した観光事業を検討し、観光客、特にインバウンドが訪問する仕組みを作っていくべきと考える。

会長： 現戦略にインバウンドの目線がなかったのは、既に動きが始まっていたが、その動きを察知しなかったため抜け落ちてしまった。その動きに辿り着くマーケティング手法が大切である。

現在はコト消費と言われている。「こんなものが」と思わずに世の中の動きを察知しながら消費に繋げていかなければならない。

西谷地区は、その地区全体が博物館のような素晴らしい場所であり、要素はある。

宿泊についても城崎は温泉地自体を 1つの旅館として誘客を進めている。それぞれの特色を出しながら宝塚市も全体として捉えていく必要がある。

また、どこの地域も「歴史」・「文化」を前面に出すが、宝塚には「都市文化」もある。ただ、それが強すぎて他の特色を薄めてしまっている「もったいない」側面もある。

委員： 国際観光協会でも西谷地区は、着目している。

基盤整備のために欧米の方を招き、外国人目線での訴求ポイントを今年度より整理中である。

会長： 外国人もさる事ながら、日本人の 80 数%の方は都市に住んでいる。

西谷地区のような四季を感じ、癒しを味わえる田舎は国内外から支持が得られると考える。

#### (4) 現状における課題の整理

事務局から、現状における課題の整理（資料 7）を説明し、その後質疑。

委員： ここ 5 年程、県外からのお客様が観光バス利用で JR 福知山線廃線敷跡や小浜宿等を訪れるケースが増えてきている。

宝塚市が全く知られていない訳では無く、徐々に認知が拡大している実感がある。

インバウンド客については、コスプレに興味がある方も多くいるので手塚治虫記念館・宝塚歌劇も絡めながらイベントの仕掛けや、農泊・民泊の充実を図り、市民との交流機会を創出する試みも必要ではないかと考える。

委員： 本日の調査報告等のデータ確認や現状把握を基に、今後のインバウンドを含めた観光戦略を検討していきたい。

委員： 資料の中に観光事業者のヒアリングがあるが、実際にそこに住む市民の声が無い。県の他地域でも行政がインバウンドに対する取り組みを行ったところ、住民の方からは、外国人が来ると汚されるため来てほしくない、インバウンドを望まないという声があった地域もあった。飛騨古川の事例も地元の受け入れ態勢が整っていた結果の話である。まず地元の理解が得られないと上手くいかない。

市民との相互理解を得ながら、その土台を基に観光事業者や行政が事業推進を行う事が大切である。

また、今回の資料でどこにも MICE (Meeting、Incentive Travel、Convention、Exhibition/Event) に触れていない。観光では特に I (Incentive Travel) の要素がある。宝塚歌劇の素材を活かし、誘致を図るといった目線も戦略策定に必要ではないかと考える。

会長： 最近ではゴルフブームもあり、これまで観光と連携してこなかったゴルフ場の活用も MICE の観点で可能性がある。

委員： 市民との相互理解を得るにあたり、地域にお金が落ちずにゴミだけが落ちるようでは理解が得られない。そのためには誘客だけではなく、同時にローカルビジネスを興していく必要がある。

会長： ローカルビジネスには、コミュニティスペースや交流の場所になる拘りをもったオーナーカフェが有効性があると考えます。

委員： 今回の観光戦略策定において宝塚市の成長分野が何か、何に投資するのか等、再度考えていきたい。

会長： 情報収集にあたり、今回の審議会で出た意見等を周りの方に共有頂き、意

見収集等も是非お願いしたい。

副会長： 今回多くの資料等を準備頂いたので、今後これを基に皆さんと議論が深まる事に期待したい。今回の資料及び議論で出なかったが、戦略策定において気になるポイントが5つある。

- ①観光公害：後付けでは無く、この視点を事前に持ちながら戦略策定を行う必要がある。
- ②教育：インバウンド誘客にも有効な積極的な子供たちの国際交流、教育交流の考えを入れてみてはどうか。
- ③食：地元の食をどう活かしていくのかという目線が必要である。
- ④SDGs：SDGs【Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）】を取り入れたツーリズムを出していく必要がある。
- ⑤市民目線：市民を巻き込んだ事業の推進の視点が必要である。

会長： 最近、オタク観光を進めている。オタクこそ、その事に対して一番知識がある。最後にオタクに辿り着くのではなく、最初からオタクの方々と繋がりを、情報を聞きながら誘客のための実験をする（実験観光学）、商品化をするといったオタクから学ぶ姿勢が必要である。宝塚市には、世界のアニメを代表する手塚治虫記念館、自然美により人々を健康や幸せにする西谷地区等魅力的なコンテンツがある。顔が見える関係、交流の仕組みを考えながら併せて来訪者数を伸ばしていく事を今後考えていきたい。

#### 4 その他

##### (1) 次回開催日程について

事務局より次回日程を11月25日（月）17時からとすることを提案し、承認。

#### 5 閉会